

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890800325		
法人名	株式会社ファイブシーズヘルスケア		
事業所名	まんてん堂グループホームたるみ塩屋		
所在地	神戸市垂水区塩屋町一丁目6番31号		
自己評価作成日	2017年3月5日	評価結果市町村受理日	平成29年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8 アメニティ川西ビル104号		
訪問調査日	2017年 3月 11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物の共有空間(フロア)が南向きの間取りである為、日当たりが非常に良く、ほど良い日光浴が楽しめる。また眼前に広がる瀬戸内海～大阪湾を見ながらの生活となる為、気分転換に海を見て心落ち着かれる方もいらっしゃる。 2軒東隣にファミリーレストランがあるので階段昇降が可能なご入居者と一緒にお昼ご飯の後喫茶外出に出かける事もしばしばある。 毎月ご家族宛にお手紙を送っている。ご入居者のご様子を写真と共に送らせて頂いている。 2か月に1回のペースで広報誌を作成し各ご家族や館内の掲示板に掲示しており好評である。
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年4月1日に開設された新しい事業所である。表札と部屋番号のプレートが並ぶ廊下は、マンションの雰囲気がある。リビング、特に2階のベランダからの眺望は素晴らしく、明るい陽射しが入り解放感に満ちている。業務で使用する書式は法人所定のものであるが、綺麗に記載されている内容とファイリングの手法に、管理者の想いがこもっている。開設後まだ日が浅いため、定期的に来訪するボランティアが少ない中、職員は被り物でトナカイや節分の鬼になったりと、盛り沢山な行事で活躍している。そんな忙しい中でも、隔月に発行する事業所通信の記事には、行事の報告と共に綺麗に印刷された利用者のスナップ写真を載せ、毎月の家族宛の手紙では、利用者の近況と写真を送り家族に喜ばれている。管理者初め職員の想いを結集し、より充実した2年目を目指される様、大いに期待したい。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に密着した介護サービスの運営方針」において「地域に根ざした介護サービスを提供し、笑顔で安心と活気のある生活が継続できるようサポートします。」という理念を掲げている。	法人の理念をチラシに掲載して对外発信するとともに、職員の名札の裏にセットして周知している。事業所として「地域に密着した介護サービスの運営指針」を12月に策定し、目下、職員への周知に努めている処である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に自治会長の参加をいただいている。散歩に行った際、公園で近所の方と会話する事もある。	自治会長及び地域包括から地域の情報を得ている。職員が利用者と一緒に海岸の一斉清掃に参加した。開設前の内覧会には、近隣からの来訪も有り、散歩の道すがら挨拶を交わす。高校生の職場体験が予定されているが、トライ・やるウイークに関しては予定が無い。	トライ・やるウイークの訪問先として、立候補されたらどうであろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長とお話しし認知症の症状の理解を得よう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で情報をオープンにし全てお話しする事を心がけている。事故報告等も行ない、対応した内容もお伝えしている。	隔月に開催しており、家族、自治会長、地域包括、知見者が参加しているが、現在のところ民生委員の参加はない。管理者が、発生した事故の傾向と対策について報告し、委員からアドバイスを得ている。事業所の運営指針は委員に諮って策定した。	民生委員とコンタクトされ、来年度からの参加を依頼されたらどうであろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター主催の研修に参加し、情報の収集に努めている。また、運営推進会議にも参加頂き、助言等を頂戴している。	開設1年目ということも有り、管理者は市や区からの立合い検査や指導を受ける中で、関係性を築いた。地域の事業所連絡会には、管理者がほぼ毎回出席し、地域の福祉資源を有効に活用する為の情報や、在宅医療に関する情報を交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時の研修や、施設内で行なっている研修で身体拘束に関する講義を行なっている。	建物の立地条件と構造上の問題で、玄関の出入りと、各階から玄関へ出るドアは電子ロックの開錠を必要としている。センサーマットを使用している複数の利用者があるが、使用開始からそれ以降も、担当者会議及び経過記録に記載している。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止部会を設置し、また職員との面談に於いても虐待を見たり聞いたりしていないかの聞き取りをしている。	利用者への呼掛けは、名字にさんを付けるが、家族と利用者の希望で、例外的に下の名前を使っているケースが有る。管理者は、ことあるごとに職員に注意を促している。職員がストレスを溜める事が無い様、職員面談を1～3ヶ月毎に行っている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入社時の研修や、施設内で行なっている研修で権利擁護に関する講義を行ない学んでいる。	現在、制度を活用している利用者はいない。契約時に特に説明は行っていないが、現在のところ制度を必要とする利用者はいないが、管理者は必要に応じて対応していく考えである。昨秋、研修を行い、使用されたテキストをファイルしているが、断片的な内容に留まっている。	概要を説明した資料を地域包括か行政から入手し、職員に配布するとともに、契約時の説明資料とされたらどうであろうか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に十分面談を行い施設で出来る事と出来ない事について説明している。契約締結時には契約書類を全て読み上げ、かつ随時質問の機会を設けて十分な説明をしている。	契約には約2時間を費やして説明することで、利用者と家族の理解を得ている。質問の多くは、費用面と受ける事が出来るケアの内容の事であり、丁寧に説明している。重度化と看取りに関しては、事業所の指針を文書で説明し、内容に関する同意書を貰っている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議においては多くの家族に参加頂きご意見を頂戴している。また、管理者だけではなく職員も積極的に話しかける事が心がけている。	運営推進会議には毎回約10名の家族が参加する。年に1度、10項目からなる家族向けの満足度調査を実施する事になっている。回答は、記名、無記名が自由であるが、直近の調査では、5段階評価の上位1と2が殆どであった。フリーコメントに記載された要望には、出来る範囲で応えている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員面談を実施し個別に意見を聞く機会を設けている。	開設1年目でもあり、職員の意見を反映しながら業務の流れを作り上げてきた。管理者は、職員と面談しながら、又ユニットリーダーは管理者を補佐しながら、風通しが良い職場環境を目指している。事業所として出来る範囲で要望にも応えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度を設けており意欲を持って業務にあたるように評価をし報酬につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の個人的な取り組みにはなるが実務者研修等の資格取得について積極的に勧めており通学についてシフト上で配慮している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価		
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他の事業所との合同研修に参加したり、外部研修に参加する事で交流の機会を得てサービスの質の向上につなげている。			
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に行うご家族からのヒアリングやご本人との面談を通じてニーズを把握するよう努めている。			
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に行うご家族からのヒアリングおよび面談を通じて関係作りに努めている。			
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時にご本人にとって適したサービスを紹介するよう努めている。			
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が主体となれる支援を心がけ、ご本人の能力に応じて日常的な家事を共に行なっている。			
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に参加いただくよう働きかけている。また、電話連絡や来訪していただくなどして関係を築いている。			
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一時帰宅される方がいたり、昔よく行っていた教会の仲間が尋ねに来られたりしている。	全利用者の家族宛に事業所から年賀状を送り、利用者の近況報告をした。利用者と家族の関係性をつなぐために、事業所通信を隔月に発行する他に、毎月「お手紙」を送り、写真と共に利用者個々の近況を綴っている。利用者同士の仲良しグループも出来て、新しい馴染みも生まれている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がご入居者の個性や性格を把握し、ご入居者様同士の関係が築ける様に介入している。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今の所、退去された方はいないが今後退去される方がいらっしゃればフォローしていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	あらかじめご入居前にご本人及びご家族からご意見を伺い意向の把握に努めている。困難な場合はご家族のご意向を尊重している。	コミュニケーションが難しい利用者が複数いる。発語が困難な利用者でも、職員の言葉は理解できるので、選択肢で問いかけて反応を見る事で、想いを汲んでいる。更衣の手伝いなどでは、利用者毎の自立度を見極めながら、過度な支援をしない様に心掛けている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前の面談で現在の生活の状況や今までの生活歴等を詳しく聞き取りし馴染の関係や生活環境等の把握に努めている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の様子や体調の変化を観察し記録している。また、医療関係者とも情報共有できるような連携をしている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に関係者から情報収集しカンファレンスを行ない課題やケアについて意見やアイデアを反映し現状に即した介護計画を作成している。	利用者毎の主担当を決める方向で調整中である。介護計画の長期・短期目標に対する達成度と利用者の満足度を、主担当が他の職員の意見を聴きながら、3ヶ月毎にモニタリングする。家族の要望は、来訪時や電話で聞き取り、それらを反映して担当者会議を開催し、3～12ヶ月毎の計画見直しにつなげている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や申し送りノートに気づき等を記録し出勤時に確認している。様子の変化や気づきは計画作成担当者に報告しケアの内容を検討するよう情報共有を図っている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診時、ご家族での対応が難しい場合の送迎や付添いを行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節ごとに塩屋川の装飾を見に行ったり近隣の公園に散歩や車椅子等その人に合った方法で行っている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医については事業所の提携医療機関のほかこれまでのかかりつけ医を利用して頂く事も可能としている。	利用者、家族の意向で入居前からのかかりつけ医を受診している。事業所の主治医の往診と訪問看護による24時間コール体制等の医療連携が、家族の安心に繋がり、主治医を移行する人が多い。協力薬局が処方の一包化に協力してくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が月4回訪問しご入居者の健康管理や健康チェックを行なっている。医療的処置や医療的相談事項もその都度している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院内の地域連携室との情報交換や相談を通じてご本人の状態把握に努めている。また退院前に病院関係者とカンファレンスを行ないそれに基づいた施設内でのカンファレンスを行ないスムーズな再入居を図っている。	入院時、事業所の職員が病院を見舞い、医療関係者と面談したり、電話で状態の把握をすることで、退院後の受け入れ体制を早期に整えることができる。病院の医師と事業所の主治医との連携が、利用者と家族の安心に繋がっている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応に係る指針」を定めている。入居時にご本人、ご家族と話し合い、事業所でできる事を十分に説明している。	管理者は、契約時に利用者の重度化、看取りについて事業所でできることとできないことを丁寧に説明している。開設後、重度化に至った利用者はまだいないが、重度化した場合のマニュアルは整備されており、看取りの経験を有する職員は在職している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご入居者の急変や事故発生時の対応をまとめた対応マニュアルを整備している。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時の備えとして、年2回避難訓練を行なっている。1回は日中想定で行い、もう1回は夜間を想定した訓練を行なっている。	年2回の災害訓練を実施し、一回目は夜間想定 の避難訓練を行った。訓練時に利用者が不穏にな った経験を活かし、2回目の訓練では、丁寧な声 かけをすることでスムーズに避難できた。今後、地 震による津波災害を想定し、消防、地域住民や事 業所との協力体制を構築していく。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	入社研修や配属後の事業所内の研修の 際、ご利用者はサービスを利用されるお客 様でありまた、人生の先輩であるため丁寧 な言葉づかいで接する事を伝えている。	入浴や排泄介助時の拒否は、利用者の羞恥心 からくる行為であるため、職員は、その人の尊厳 を守る声かけに努めている。管理者は、日常的に 職員に注意を促し改善に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	要望やニーズを把握するため積極的にコ ミュニケーションを図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝・食事・入浴はご本人の意向を尊 重し可能な限りご本人のペースにあわせて 柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	服装は季節感に合わせたものをご用意いた だくようご家族に依頼している。着替えの服 も選べる方には選んでいただく。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけを一緒に行っている。	日々の食材は一括して届けられ、職員が調理し ている。利用者は、一緒に配膳や盛り付けなどを 楽しみながら、出来る範囲で手伝っている。月2回 の手作りの昼食は、利用者の好みや季節の食材 を取り入れ、料理が得意な職員によるフランス料 理も好評だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	入居面談時の食事アセスメントで食生活の 習慣を把握している。食事量や水分量が少 ない時は十分な量の摂取を促す。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝と夕の口腔ケアを実施している。また月4回歯科往診が来る。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居面談時の排泄アセスメントで排泄の様子を把握している。日頃の様子を観察した上でなるべくトイレで排泄が出来るように援助している。	個々の排泄パターンを把握したうえで、トイレ誘導や夜間のパット交換により、利用者の失敗を減らすよう支援している。羞恥心が強く、排泄介助へ強い拒否を示す人には、声掛けの工夫や職員を変えるなどの対応をしている。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や体操を勧めたり散歩等の運動を勧めたりしている。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限りご本人の意向やペースに合わせて入浴を提案している。	入浴時間を、午前、午後だけでなく、夕方を希望する利用者にも柔軟に対応が出来る体制である。浴室は、浴槽が利用者の身体レベルに合わせてスライドする最新の設備が整っている。ゆず湯で季節を感じる工夫もしている。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅からベッド周辺に置いてあった馴染のものをお持ちくださるよう働きかけをしている。眠れない時等はホットミルクを提供したりして、落ち着いて入眠できるような支援をしている。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を個人の記録ファイルにファイリングし今服用している薬についてすぐ確認出来るようにしている。薬の変更等はその都度申し送りノートに記載し情報共有に努める。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の得意な事を理解し、役割を担って頂いている		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	午後の時間をあけるなどして個別対応の時間を増やし散歩に行く。	歩行可能な利用者は、海岸沿いの公園まで散歩を楽しんでいる。天気の良い日は、明石焼きや喫茶店などのコンパクトな外出に行くことで、楽しいひと時を過ごしている。外出時は、車の渋滞や混雑のある週末は避けるなどの工夫もしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として金銭の預かりはしていない。買い物の際はホームで立て替えをし、入居料と一緒に請求させて頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙がこまめに届く方はいる。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温湿度計を設置して快適な空間作りに努めている。また、季節感のある掲示物を作成し飾っている。	食事やレクリエーションをするリビングは、大阪湾に面し、明るく見晴らしの良い空間となっている。利用者同士が不穏状態にならないよう、テーブルの配置や座席を決めている。対面式のキッチンでは、料理中の職員が利用者と同顔を合せ、会話も弾み、家庭的な雰囲気が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの一角にソファを設置しフロアからほんの少し離れたところでお過ごしいただく。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ自宅の雰囲気に近い環境にするために使い慣れた家具や寝具類を持参いただける様配慮する。	居室入口の表札や落ち着いたドアはマンションを思わせる。居室内に馴染みのタンスを持ち込む人、壁に手作りのカレンダーやひ孫、愛犬の写真を貼るなどして、利用者個々の好みや生活が反映された居心地の良い居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を取り込まれたり、たたまれたりしている。		